

(概要版)

主体的に学び、思考力・判断力・表現力等を高めるための 国語科指導の在り方に関する研究

- 「読むこと」領域(文学的文章)における「単元を貫く言語活動」の充実を通して -

研究の概要

一般留学生 山下 忍

学習指導要領

「確かな学力」
「言語活動の充実」

国語科

「言語に関する能力の育成」
「言語活動を通して
指導事項を指導」

単元を貫く言語活動を 位置付けた国語科指導

今まで

教科書を教える

「読むこと」領域における指導過程

導入	<ul style="list-style-type: none"> 全文を通読 初発の感想 課題を知る 	<p>「なぜその文章を読むの?」「どう読めばいいの?」「読み合っとうするの?」</p>
展開	<ul style="list-style-type: none"> 教材文を場面ごとに読みとり、登場人物の心情を想像する 	<p>他の文章を読む力に転移していかない 読書量の不足 本嫌い、国語嫌いを助長</p>
発展	<ul style="list-style-type: none"> 学習のまとめ 楽しく発表 	

その1
今までとのちがいは?

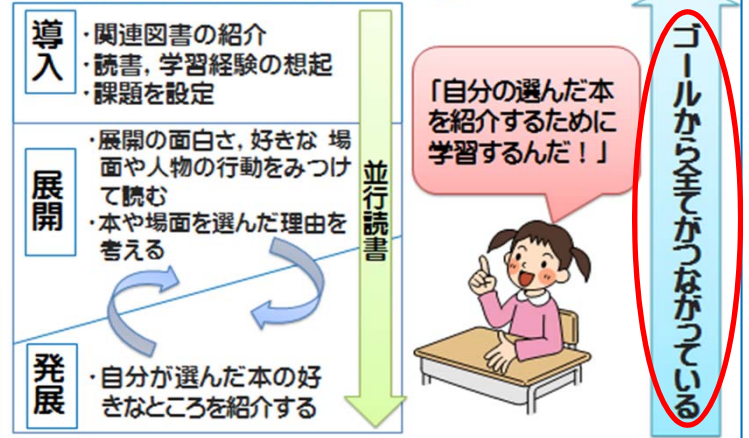


その2
言語活動には、どんな活動があるの?

これから

教科書で教える

単元を貫く言語活動を位置付けた 「読むこと」の指導過程の例



その3
どのように指導計画を立ていくの?

付けたい力に最適な言語活動を選定するための 言語活動選択リスト

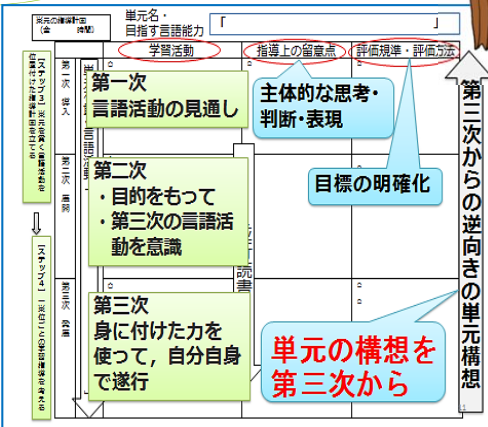
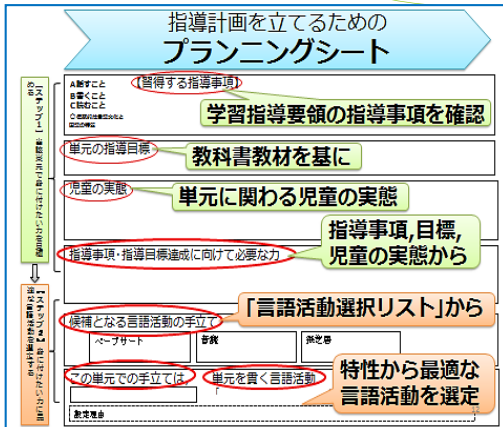
言語活動とその手立て	活動の特性	身に付けさせる言語に関する能力
音読	内容が伝わるように、声に出して読む。	登場人物の心情を想像し、読み方などを工夫して読む。
朗読	内容が伝わるように、声に出して読む。	登場人物の心情を想像し、読み方などを工夫して読む。
演じる	作品の内容を効果的に伝えるために、人役を分けて声に出して読む。	身に付けさせたい力(その活動に必要な力)
ペーパーサート	作品の登場人物を紙の裏と裏に絵を描き、場面や動きを計算して絵を配置する。絵に変化を付ける。	場面の様子や移り変わりに注意しながら、登場人物の心情や動きなどを取り取り、ペーパーサートを作る。
手立てとなる活動	手立てとなる活動	手立てとなる活動
言語活動例	物語を場面に分け、全面に絵、背面に文をかき、物語を伝える。	通じる力。(物語を場面に分け、絵を描き、横に動く動きを計算して絵を配置する。絵に変化を付ける。)
	物になりきって、特定の場物語り全体を通じる。また、物語の場面を作る。	登場人物になりきって通じる能力。登場人物の行動を動作化することによって心情や情景を想像する力。(描写に動きのあるものは、やりやすい。)

単元を貫く言語活動を位置付けた 指導過程作成のステップ

- ステップ 1 当単元で身に付けたい力の見極め
- ステップ 2 身に付けたい力に最適な言語活動の選定
- ステップ 3 単元を貫く言語活動を位置付けた指導計画の作成
- ステップ 4 一単位時間ごとの学習指導の構想

その4
付ける力を明確にして、指導計画を立てるには？

その5
授業実践が
知りたい！



授業実践

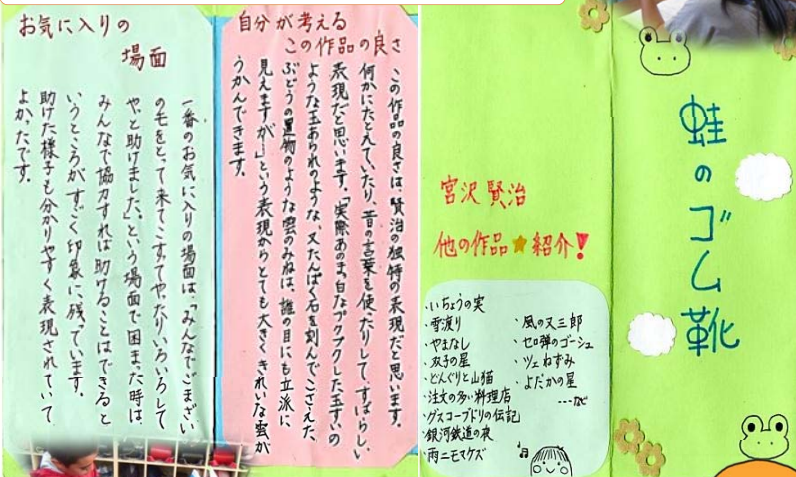
第6学年 教材文「やまなし」(イーハトーヴの夢)

【言語活動】

「宮沢賢治の作品をリーフレットで紹介する」

研究の結果

子どもたちが作り上げたリーフレット



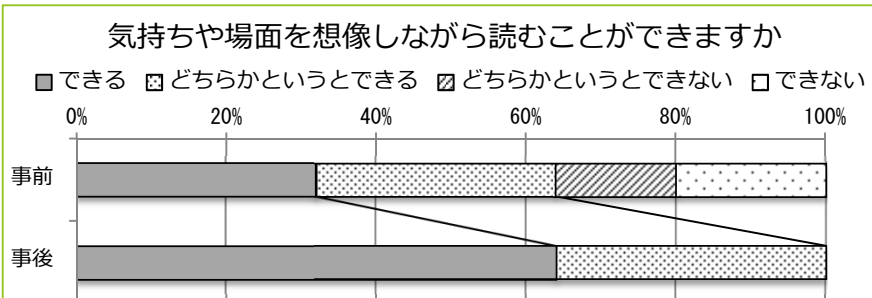
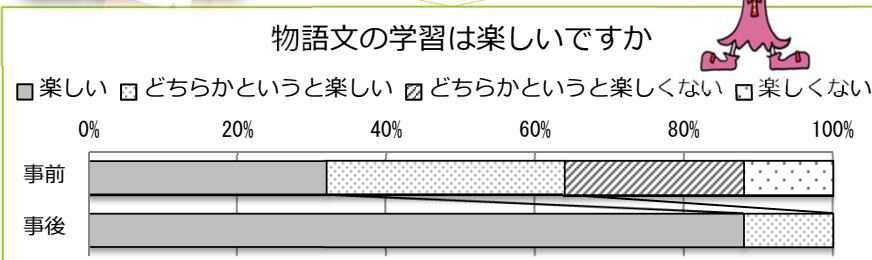
学習を通して
子どもたちは...

研究の成果

- 「プランニングシート」の活用によって
- 付けたい力、指導内容が明確にでき、ぶれずに指導計画を立てることができた！
- 「言語活動選択リスト」の活用によって
- 最適な言語活動を選定することができた！
- 単元を貫く言語活動を位置付けた授業実践によって
- 子どもたちが、主体的に学び、知識・技能を習得し、思考力・判断力・表現力等を育むことができた！

今後の課題

- 小学校六年間を見通した指導
- 付けたい力がバランス良く身に付くように見直しをもつこと。
- 他教科との連携と中学校への接続
- 言語活動のさらなる充実のために他教科と連携を行うこと。
- 保護者との連携
- 読書意欲の向上のために保護者との連携、県教育委員会の「家読(うちどく)推進運動」の取組につなげていくこと。



楽しい！分かった！できた！ → 主体的な学び 学習意欲、理解の向上へ